



ちづくりを進めている富山市の例を取り上げました。最後に、かつて住んだこともある横浜市の今後についても言及し、横浜市が「交通は街のために」と「デザインの大事さ」を尊重して進めて欲しいと強調されました。

続いて報告1では、横浜市都市整備局都市交通課長の松井恵太氏が「横浜都心臨海部における新たな交通システム導入について」と題して報告をされました。横浜市は都心臨海部の開発計画を進めていて「都心臨海部再生マスタープラン」を策定し、MICE(国際会議場など)機能の強化、山下埠頭の開発、新市庁舎の整備など2020年までに整備が予定されている施設などのほか様々な開発が予定されていて、それらを回遊する公共交通をLRTや接続バスなど新たな交通システムの導入を検討して来ました。調査費として2014年度は750万円を、2015年度は3,000万円を使い、具体的な路線を想定するなど検討を重ねて来ましたが、結論としては、短期的には2020年までに完成する施設への移動などを支えるためのバスを活用した新たな交通(高度化バスシステム)を導入することを決定。その理由として現状の自動車交通量を計画交通量とし、必要な車線数とLRT導入時の車線数を比較したところ栄本町線などを除く多くの道路で、現状の自動車交通量を捌けないことが明らかになり、LRTの導入は現時点では難しいとして、LRTは今後、2020年以後の中長期的な計画の中で、LRT、高度化バスシステム、及び路線バスのベストミックスを検討して行くとの結論としたとのことでした。

また、高度化バスシステムのイメージとしては、①街のシンボルとなるデザインの車両 ②良好なバス待ち環境、乗降しやすい交通結節点などに力点を置くとのこと。

当会にとっては残念な結論ですが、もともと2020年のオリンピックを目標としたLRTの計画は時間的に難しいのではないかと考えていたこともあり、この決定は衝撃でもありながら一方で想定内とも言えますので、2020

年以降のベストミックスと言う形の中でLRTが中心になることに望みを持ちたいと思います。

第2部の報告2では、当会の古川洋副理事長が「新たな交通システム導入に関する課題と提案について」と題して報告をしました。当会としては、横浜市が2020年までとは言え、LRTではなくバスシステムの導入を決定したことには落胆もあったため、横浜市の決定に対して、課題と提案をぶっつけようという意図がありました。とはいえ、中長期的にはLRTを含めて検討するという一種の玉虫色の方針に、強くは批判出来ないこともあり古川副理事長の報告は、苦心した内容になりましたが、さりげなくバスよりもLRTの優位性を訴えつつ、2020年以降のベストミックスにはLRTがその中心になって欲しいことを強調、ポストオリンピックに向けて市民を鼓舞した報告になったことが印象的でした。

報告3では、当会の理事で横浜の公共交通活性化をめざす会事務局長である小田部明人氏が、「スペイン各都市におけるトラムの導入状況について」と題して報告をしました。フランスやドイツではトラム(LRTはヨーロッパではほとんどの国でトラムと呼ぶ)が、普及していることは知られていますが、スペインでも工事中のものも入ると16都市もあって驚きです。写真をふんだんに使った分かりやすい報告でした。

最後に質疑応答を行い、会場の参加者から多くの質問が有りました。多くは横浜市のお考え方や取り組みを問うものでしたが、松井課長が丁寧に答えて下さり、有意義な機会となりました。

終了後、近く中華料理店で懇親会が開かれ、LRTやまちづくり談義が続いたことを報告します。

(報告：清水康二)

総会報告

5月9日に第12回通常総会を開催しました。2015年度活動報告、2015年度決算、2016年度活動方針、2016年度予算すべて承認されました。

当会の活動は会員会費によって支えられています。そのため会員拡大が毎年大きな課題です。今年度方針として会員拡大に力を入れること、宇都宮市視察などまち歩きを市外を含めて行うこと、11月に福井で開催される「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」に出席することなどが決定されました。

(報告：松川由実)